

地域で医師を育てる あおぞら診療所の試み

2007年1月13日

あおぞら診療所 川越 正平

若手医師の会でのこれまでの活動

連続講演会「君はどんな医師になりたいのか」	(92年～97年)
「初期プライマリケア研修」出版	(1994年)
「学生のためのプライマリケア病院実習」出版	(1995年)
初期臨床研修についての提言書を厚生大臣に提出	(1998年)
第25回日本医学会総会「臨床研修の在り方」	(1999年)
あおぞら診療所開設	(1999年)
臨時国会において医師法改正成立	(2000年)
「君はどんな医師になりたいのか」出版	(2002年)

発想の転換

「何科の医師になるのか」
「どの医局に入局するのか」



「どんな医師になりたいのか」



「患者の求める医師とは」
「地域では何が求められているのか」

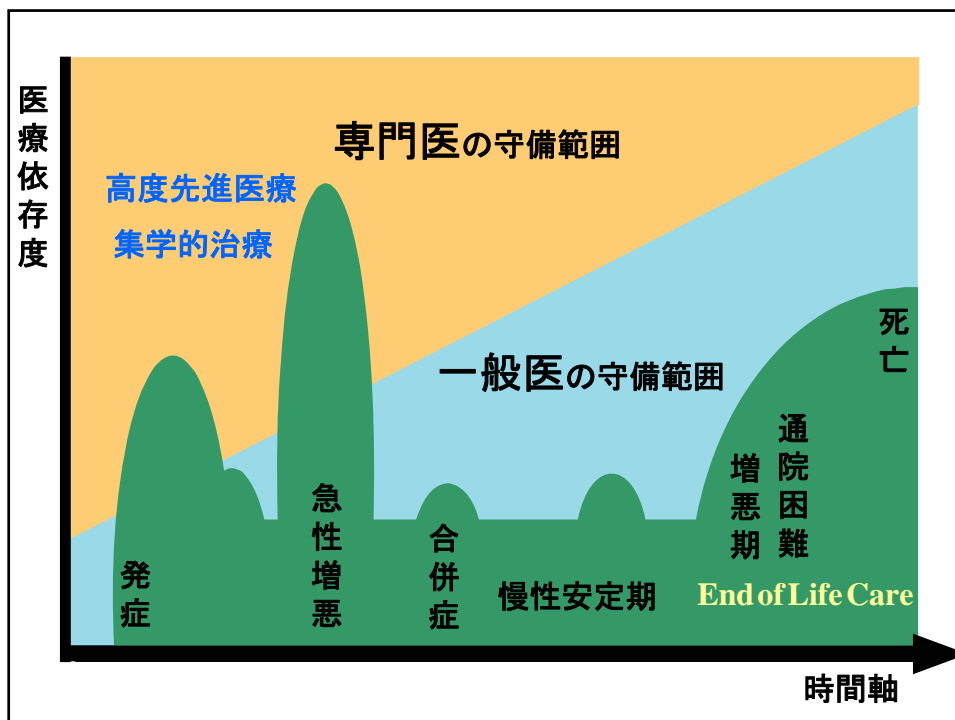
「主治医」とは

人と人とのつながりを大切にし、疾患の種類によらず心身各部の診療の求めに応じ、**継続して患者の生命と生活に責任を持ち続ける医師**

病んだ患者という存在に関心を持ち、「生活」や「家族」、「地域」という脈絡の中で活躍する

あおぞら診療所設立までの経緯

- 医師卒後研修に関する10年間の討論蓄積
- 『主治医』という言葉をも自分たち自身が地域で実践する場としての開業を志した
- 在宅医療を中心に据えた地域での診療実践
- 優れた人材を輩出することを最終目標



End of Life をどう過ごすか

- 住環境
- 家族関係や世帯構成
- 貧困

疾患や障害を持ちながら生活を継続する

→ 治癒や生命の延長以上に

QOLや満足度に重点を置く

- 生活の継続性
- 個人の尊厳やQOL
- 死にゆく場所を自ら選べるのか

あおぞら診療所

- 二つの診療所で約420名を担当
- スタッフ: 医師 常勤 5名 非常勤 2名
看護師 常勤 8名 非常勤 6名
- 「地域を病棟」ととらえる
365日の出勤体制
24時間のon call体制

重層的な医師教育の実践

- 医学生の診療所実習
- 初期臨床研修における地域保健・医療研修
- 3年目以降の医師の在宅医療研修
- 在宅医を目指す医師の開業前研修
- 地域の臨床研修病院の研修医を対象にした教育カンファレンス
- 全国行脚

医学生 of 診療所実習

- 医学生の診療所実習
 - 東京医科歯科大学総合診療部BSL
 - 順天堂大学公衆衛生学実習
 - その他の大学の選択実習
- 夏期休暇その他を利用した実習

地域保健・医療研修

17年度20名、18年度25名、19年度26名の
研修医をそれぞれ1か月ずつ受け入れ

虎の門病院

東京医科歯科大学

みさと健和病院

都立広尾病院

訪問診療、小児外来診療、訪問看護、デイサービス、
特養など、さまざまな地域リソースの経験を盛り込む

在宅医療研修の受け入れ実績

- 3年目内科医
週半日の無給研修6ヶ月間
- 5年目内科医
週半日の非常勤勤務1年6ヶ月間
- 10年目小児科医
週一日の非常勤勤務2年間
- 12年目循環器専門医
週一日の非常勤勤務継続中
- 4年目家庭医
週一日の非常勤勤務継続中

在宅医を目指す医師の開業前研修

- 11年目外科医
開業準備と並行して週3日1年半勤務したのち2004年4月開業
- 13年目精神科医
当院常勤医として5年間勤務ののち独立予定
- 8年目消化器内科医
当院常勤医として1年間勤務ののち独立
- 8年目消化器内科医
当院常勤医として2年間勤務ののち開業予定

研修医を交えた教育カンファレンス

- 地域保健・医療研修中の研修医2名に加え、近隣の臨床研修病院研修医の参加も得て毎週1回開催し、共に学ぶ
- 研修医が臨床経験で生じた疑問点や深めたいと感じたテーマについて、論文抄読やミニレクチャーを各1題発表
- 常勤医レクチャー
- 研修総括

全国各地の医療機関を行脚する

- 毎月1～4日間の日程を確保
- さまざまな取り組みを行っている全国各地の診療実践を垣間見る機会を設ける
- それぞれの地域の特性や抱える課題を知る
- 自己の診療を相対化する貴重な機会となる
- 貴重な人脈を得る

結語：地域で医師を育てる

- 医療の密室性を打破し、自らの診療実践の検証となる
 - 自らの生涯学習や医療の質向上に寄与
 - 患者中心の医療・ケアにつながる
 - 地域を「病棟」と捉え、さまざまなマンパワーを集結するチームを構築し、地域に365日24時間の安心を提供する
- 「地域で医師を育てる」という遠大な目標のもと、患者、研修者、診療所のすべてが成果を得る戦略が重要